

再処理工場・MOX燃料工場のしゅん工時期変更について

当社はこれまで新規制基準への適合に向けて、全社をあげて取り組んできましたが、より一層の安全性向上のための工事等に時間を要することから、このたび、再処理工場およびMOX燃料工場のしゅん工時期を変更することといたしました。今回はみなさまに、それぞれの工場の新しいしゅん工時期と変更の理由についてお知らせいたします。

再処理工場

しゅん工時期変更の理由

新規制基準への適合には多くの工事が必要で、特に長期間におよぶ主な工事と、その工事に必要な期間を検討した結果、今後2年半程度を要する見通しが得られたため。

これまで **2016年3月** → 今回 **2018年度上期**

今後の主な工事

●緊急時対策所の新設

重大事故が同時発生した場合に備え、対応者の作業性向上や資機材等の拡充のため、既存の緊急時対策所(約200人規模)の約2倍の新たな緊急時対策所を設置します。また、耐震性についても更に向上させた*1建物にします。



既存の緊急時対策所

●貯水槽の新設

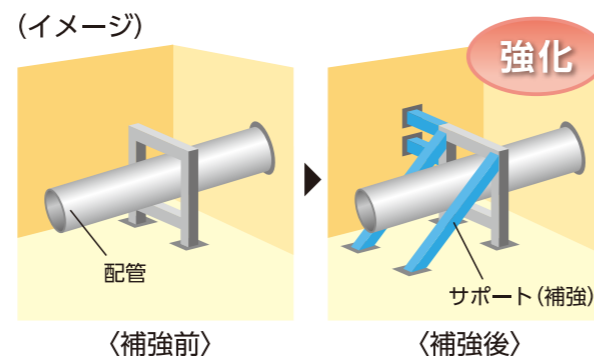
大きな地震によって重大事故が発生した場合に備え、再処理工場にある高レベル廃液などの冷却等を確実に実施するため、耐震性を向上させた*1新たな貯水槽を設置します。また、確保する水量も既存(約20,000m³)の2倍とします。



既存の貯水槽

●配管等の補強

大きな地震によって配管が壊れ、水や化学薬品があふれ出さないよう、耐震BCクラス(★用語解説参照)の配管等を補強し、耐震性を向上させます。また、補強する配管等が多くなったことから、工事の物量も増えます。



*1:岩盤まで掘り下げ、建物を直接岩盤に支持させる。

MOX燃料工場

しゅん工時期変更の理由

建設の初期段階*2にあり、現在実施中の建屋の建築工事に加え、新規制基準への適合に必要な設計変更などを含む設備工事に、今後3年半程度を要する見通しが得られたため。

*2:工事進捗率11.6%(2015年11月1日現在)

これまで **2017年10月** → 今回 **2019年度上期**

今後の主な工事

●グローブボックスの耐震性強化

MOX粉末を取り扱うグローブボックスは、耐震クラスをBクラス⇒Sクラス(★用語解説参照)に強化します。

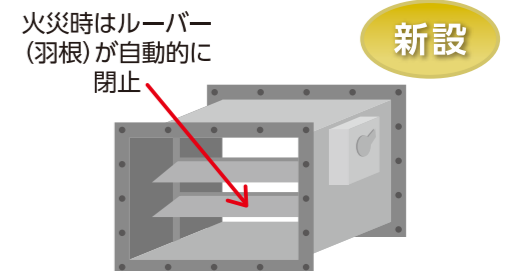
グローブボックスとは
ステンレス製の枠組み、透明なパネルとゴム製のグローブで構成される気密性のある箱型の設備。グローブを介してボックス内のMOX粉末等を安全に取り扱うことができる。



製作中のグローブボックスの例

●防火ダンパ等の新規設置

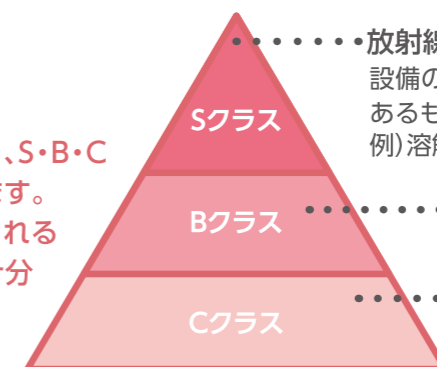
火災発生時の対策をより強化するため、グローブボックス等の換気設備に防火ダンパを新たに設置するなどし、火災が燃え広がることを防ぎます。



防火ダンパ(イメージ)

★用語解説

〈耐震設計のしくみ〉
当社の施設は重要度に応じて、S・B・Cクラスに分類して設計しています。特にSクラスは、敷地で想定される最大規模の地震の揺れにも十分耐えられる設計にしています。



.....放射線による環境への影響が大きいもの
設備の機能喪失により、放射性物質を外部に放散する可能性があるもの。上記の事態の防止もしくは影響低減に必要なもの。
例) 溶解槽 (再処理工場)

.....Sクラスに比べて影響が小さいもの
例) せん断機 (再処理工場)

.....一般産業施設と同等の安全性を保持すれば良いもの
例) 建屋内放射線モニタ (再処理工場・MOX燃料工場)